

目的 ファッション・プレートとはこれからくるであろうファッション情報を伝えた版画で、単に服装の情報だけではなく、そこに描写されたものを見てゆくことで、当時の社会やライフスタイルの一端を知ることができる。

本研究では、服装とともに常に描写されてきた人物の顔について、色彩豊かに表現されているファッション・ブック「ジュルナル・デ・ダーム・エ・デ・モード」を中心に考察してゆくことを目的とする。(本誌は第一次世界大戦直前の約2年間(1912-14)、パリで発刊されたもので、当時の文化、芸術の中心人物たちによってつくられた。40名以上のイラストレーターによる186枚のプレートが挿入されている。)

方法 本誌を中心に、ファッション・プレートに表現された図像及び解説を通して解析する。文献調査とあわせて‘描かれた顔’を考察してゆく。

結果 ファッション・プレートの顔には次のような特徴が見られる。

19世紀初頭の簡素さから、19世紀中葉には、自然で明るいバラ色の頬を持つ顔が多く見られるようになった。デザインの概念が生まれた20世紀初頭の「ジュルナル・デ・ダーム・エ・デ・モード」では、人物が描かれたプレート168枚中51枚にカラフルなアイメイクが認められ、95%のプレートの顔が色彩豊かに描写され、アール・デコの香り高いものになっている。本誌は科学技術の発達と揺れ動く芸術運動の影響下で、多様化してゆくライフスタイルを提案した。‘顔’をデザインする試みは、一枚一枚のプレートをさらに美的に完結させている。